

野球規則に基づいた

スコアブック記入上の留意点

(安打、打点、塁打、失策、野手選択、盗塁、犠打)

長崎県高等学校野球連盟

1. 安打

10.05

a 次の場合安打を記録する

(2) フェアボールが強すぎるか、または弱すぎたために、野手はその打球を処理しようとしたがその機会がなくて、打者が安全に一塁に生きた場合。

(強すぎる～強襲安打。弱すぎる～内野安打)

【原注】遊撃手が処理すればアウトにできたかもしれないと思われる打球に対して、三塁手が飛び出してデフレクトしたり、あるいは途中でカットして処理しようとしたが、結局プレイできずに終わったような場合などは安打と記録する。

(デフレクトとは、野手が打球に触れて球速を弱めるか、あるいは打球の方向を変えたことを意味する。)

(3) フェアボールが不自然にバウンドしたために、野手の普通の守備では処理することができずに打者が安全に一塁に生きた場合。

(5) 野手に触れていないフェアボールが、走者、審判員の身体または着衣にフェア地域で触れた場合。

(6) 打球を扱った野手が、先行走者をアウトにしようとしたが成功せず、しかもその打球に対して普通に守備をしても、一塁で打者走者をアウトにできなかったと記録員が判断した場合。(犠牲バントの場合も安打を記録し犠牲バントと記録しない)

(本条各項の適用に当たって疑義のあるときは、常に打者に有利な判定を与える)

(打球に対して非常な好守備を行ったが、続くプレイが十分でなくアウトをとることができなかった場合などには、安打を記録するのが安全な方法である)

b 【注1】走者がオーバースライドなどのために、いったん触れた塁を離れてアウトになったときには、打者は走者を進めることができたものとみなして、打者に安打を記録する。

【注2】走者二塁のとき、打者が遊撃手と左翼手との中間に小飛球を打ち上げた。二塁走者

は、捕球されるのを懸念して離塁が少なかった。落球を見て三塁へ走ったが、遊撃手の送球でアウトになったような場合には、打者に安打を記録する。

(フォースアウトの場合は安打にはならない)

b(4) 【原注】打球を扱った野手が、ただちに打者走者に向かわないで、わずかに他の走者をうかがったり、または他の塁へ送球するふりをした（実際には送球せず）ために送球が遅れて、打者を一塁に生かした場合、打者に安打を記録する。（犠牲バントの場合も同じで犠牲バントと記録せず、安打を記録する。）

(5) 打球を処理しようとする野手を妨害したために、走者がアウトを宣告された場合。

(打者には安打を記録しない。) ただし、走者が守備妨害でアウトになった場合でも、記録員がその打球を安打と判断した場合には、打者には安打の記録を与える。

10.12

【原注 1】はっきりとしたミスプレイをともしない緩慢な守備動作は、失策とは記録しない安打と記録する。

d(2) 野手が普通に守備をして、しかも好球を送っても、走者をアウトにすることができなかつたと記録員が判断した場合には、野手が悪送球をしても、その野手には失策を記録しない。打者に安打を記録する。

【注】野手が難球にたいして非常に好守備をしたが、体勢が崩れたために悪送球をした場合には、送球が良ければ、打者または走者をアウトにできたかもしれないと思われるときでも、その野手に失策を記録しない。打者に安打を記録する。

次の場合安打を記録しない

10.06

b(2) 打者が明らかに安打と思われる打球を打ったにもかかわらず、進塁を義務づけられた走者（打者が走者となったため）が、次塁の触塁を誤って、アピールによってアウト（封殺）になったときは、その打者には安打を与えず、打数を記録する。

(4) 打者が一塁でアウトになるだろうと記録員が判断したとき、打球を扱った野手が先行走者をアウトにしようとして行った送球または触球行為などが不成功に終わった場合。（野手選択を記録する。）

2. 打点

10.04

a(3) 0アウトまたは1アウトで、打者の打球に対して失策があったとき三塁走者が得点

した場合は、その失策がなくても、走者は得点できたかどうかを確かめ、失策がなくても得点できたと認めれば、打者には打点を記録する。

- c 野手がボールを持ちすぎたり、あるいは塁へ無用な送球をするようなミスプレイの間に走者が得点した場合には、このようなミスプレイにもかかわらず、この間走者が走り続けて得点した場合には、打者には打点を記録する。
(いったん止まった走者がミスプレイを見た上で、走り直して得点した場合には、野手選択による得点と記録して、打者には打点を記録しない。)

3. 単打、長打

10.06

- b 【原注】 先行走者が本塁でアウトになるか、失策のためにそのアウトを免れた場合は、打者が三塁を得ていても三塁打とは記録しない。一塁走者が三塁へ進もうとしてその塁でアウトになるか、または失策のためにそのアウトを免れた場合には、打者が二塁を得ていても二塁打とは記録されない

先行走者がアウトにされる機会がなかったときは、先行走者が進んだ塁数に関係なく、その打者の塁打数を決定する。先行走者が1個も進めなかったときでも、打者には二塁打と記録される場合もある。

- c 長打を放った打者が、二塁または三塁を得ようとしてスライディングを試みたときには、進んだ最後の塁を確保して、初めて二塁打または三塁打と記録する。
(オーバースライドして塁に戻る前に触球アウトになった場合には、安全に確保したとはいえない。)

【原注】 打者走者が二塁や三塁を踏んで通過し、引き返そうとして触球アウトになったときには二塁打、三塁打が与えられる。

- e 打者走者がオブストラクションの規定に基づいて、2個または3個の塁または本塁が与えられた場合には、打者走者が進んだ塁によってそれぞれ二塁打、三塁打本塁打と記録する。
(サヨナラ安打の塁打決定)

10.06

- f 最終回、打者がフェンス越えの本塁打を打った場合を除いて、最終回に安打を放って勝ち越し点をあげた場合、打者には勝ち越し点をあげた走者がその安打で進んだ塁と同じ数だけの塁打しか記録されない。しかもその数だけの塁を触れることが必要である。

【原注】 9回裏同点で走者二塁のとき、打者が外野へ安打を放ち、一塁を経て二塁へ向かったが、二塁に達するわずか前に二塁走者が本塁に達した場合でも、打者走者が二塁に達すれば、打者に二塁打を与える。

【注】 最終回で走者二塁のとき、打者がバウンドでスタンドへ入るサヨナラ安打を放った場合、打者が二塁打を得るためには、二塁まで正規に進むことを必要とする。しかし、走者三塁のとき、打者が前記の安打を放って二塁に進んでも、単打の記録しか与えられない。(エンタイトルルツーベースにならない)

4, 犠打

(犠牲バント)

10.08

- c 打者のバントの打球で次塁へ進もうとする走者のうち1人でもアウト（フォースアウト、タッグアウトの区別なく）にされたときには、打者には犠牲バントは記録しない。

【注2】 走者がアウトになった場合だけでなく、当然アウトになるはずのときに、野手が悪送球、落球、ファumbleなどのミスプレイによって走者を生かした場合も同様、(犠牲バント)とは記録しない。(失策が記録される。)

しかし、このようなミスプレイがあった場合には、そのミスプレイがなくても走者が進塁できたかどうかを判断して、ミスプレイがなくても進塁することができたと判断した場合には、(犠牲バント)を記録する。

(犠牲フライ)

- d(2) 捕球し損じたときに走者が得点した場合で、仮にその打球が捕らえられていても、捕球後走者は得点できたと記録員が判断した場合には、(犠牲フライ)と記録する。

【原注】 また、捕球されなかったので打者が走者となったために、野手が他の走者をフォースアウトにした場合も上記にあたる時は、(犠牲フライ)を記録する。

【注】 ただし、三塁走者が落球や、他の走者をアウトにしようとプレイしたのを利して得点した場合には(犠牲フライ)を記録しない。

5. 盗塁 (S)

10.07

- a 走者が投手の投球に先立って、次塁に向かってスタートを起こしていたときは、たとえその投手が暴投または捕逸となっても、暴投または捕逸と記録しないで、

その走者には盗塁を記録する。

【注1】

① 打者への四球目（フォアボール）のとき、打者の四球によって次塁が与えられなかった走者が、暴投または捕逸があっても、投球に先立って盗塁を企てていれば、盗塁が記録される。

② 打者の三振目のとき、打者または走者の進塁に対して、暴投または捕逸が記録された場合、走者が投球に先立って盗塁を企てていれば盗塁が記録される。

ただし、2アウト後、走者一塁、一・二塁、一・二・三塁のときの各走者の進塁、および走者一・三塁のときの一塁走者の進塁に対しては、盗塁は記録されない。

【注2】

打者が捕手またはその他の野手に妨害されたときに、走者が盗塁を企てていたので、インターフェアされたことにより次塁への進塁を許された場合、その走者には盗塁を記録する。

b 走者が盗塁を企てたとき、投手の投球を受けた捕手が盗塁を防ごうとして悪送球をしても、盗塁だけを記録し、捕手には失策を記録しない。

c 盗塁を企てるか塁を追い出された走者が挟撃されて、失策を記録されない守備側の不手際からアウトを免れて、次塁に進んだ場合には、その走者に盗塁が記録される。そのプレイ中、他の走者も進塁した場合には、その走者にも盗塁を記録する。また、盗塁を企てた走者が挟撃され、失策を記録されない守備側の不手際からアウトを免れて、元の塁に帰ったプレイの間に、他の走者が進塁した場合、進塁したその走者には盗塁を記録する。

d 重盗、三重盗に際して、ある走者が奪おうとした塁に達する前か、あるいは塁に触れた後オーバーライドして、野手の送球によってアウトにされたときは、どの走者にも盗塁は記録されない。

【注】 現実にアウトになった場合だけでなく、当然アウトになるはずの走者が失策によってアウトを免れたと記録員が判断した場合も同様、どの走者にも盗塁は記録されない。

e 野手が好送球を明らかに落としたために、盗塁を企てた走者がアウトを免れたと記録員が判断した場合には、送球を落とした野手に失策を記録し、走者には盗塁を記録しない

6. 失策（E）

(次のような場合には、記録員が失策を記録するにあたって、野手がボールに触れたか否かを判断の基準とする必要はない。)

10.12

a 【原注2】野手が普通の守備行為をすれば捕ることができたと記録員が判断すれば、その野手に失策を記録する。たとえば、内野手の横をゴロが通過したとき、その内野手がその守備位置で普通の守備行為をすれば走者をアウトにできたと記録員が判断すれば、その内野手に失策を記録する。また、外野手が飛球を落としたとき、その外野手がその守備位置で普通の守備行為をすれば捕球できたと記録員が判断すれば、その外野手に失策を記録する。

b 悪送球によって走者が進塁した場合は、走者の数および塁数には関係なく、常にただ1個の失策を記録する。

c 審判員が打者または走者に妨害もしくはオブストラクションで進塁を許したときには、このような妨害行為を行った野手に失策を記録する。この場合、進塁を許された走者の数および塁数には関係なく、常にただ1個の失策を記録する。

(ただし)

【原注】審判員がオブストラクションによって、打者または走者に与えた塁と、プレイによって打者または走者が進むことができたと思われる塁とが一致したと記録員が判断した時には、オブストラクションをした野手には失策を記録しない。

d(3) 【原注】併殺または三重殺のとき、最後のアウトに対する好送球を野手が落としたときには、その野手には失策を記録する。この場合打者には打点はつかない。

【原注3】野手が、他の野手のミスプレイの原因となったときは、失策を記録する。たとえば、他の野手のグラブにぶつかってボールを飛び出させた場合である。このような場合、捕球を妨げた野手（ぶつかった野手）に失策を記録する。

頭脳的な誤りが実際のミスプレイにつながった場合は、その野手に失策を記録する。たとえば、野手が第3アウトと勘違いして、ボールをマウンドに転がしたりして、走者の進塁を許したような場合である。

e 【注】第3ストライクを捕らえ損じた捕手が、ただちに投球を拾い直して一塁に送ったが、悪送球となって打者走者を生かした場合、送球がよければアウトにできたと記録員が判断すれば、暴投または捕逸を記録しないで、捕手に失策を記録する。

(次の場合失策を記録しない)

10.12 a 【原注1】

はっきりとしたミスプレイをともなわない緩慢な守備動作は、失策と録しない。

(1) 【原注3】 頭脳的な誤り、または判断の誤りは、失策と記録しない。
投手が一塁ベースカバーに入らないで打者走者を生かした場合、投手に失策を記録しない。

野手が間に合わない塁へ不正確な送球をしても、失策を記録しない。

(しかし、走者がその塁より余分に進塁した場合には失策を記録する。)

d(2) 野手が普通に守備して、しかも好球を送っても、走者をアウトにすることはできなかつたと記録員が判断した場合には、野手が悪送球しても、その野手には失策を記録しない。(打者は安打) また捕手の盗塁を防ぐ送球(走者は盗塁)

(ただし) その悪送球によって、その走者または他のいずれかの走者が、送球がよくても進塁できたと思われる塁以上に進塁したときには、その野手には失策を記録する。

【注】 野手が難球に対して非常に好守備をしたが、体勢が崩れたために悪送球をした場合には、送球がよければ、打者または走者をアウトにできたかもしれないと思われるときでも、その野手には失策を記録しない。(安打)

(ただし) 打者走者や他のいずれかの走者が余分に進塁した場合にはその野手には失策を記録する。

d(3) 野手が、併殺または三重殺を企てた場合、その最後のアウトを取ろうとした送球が悪球となったときは、このような悪送球をした野手には失策を記録しない。

7. 野手選択 (F C)

(定義) 2.28

フェアゴロを扱った野手が一塁で打者走者をアウトにする代わりに、先行走者をアウトにしようとする他の塁へ送球する行為をいう。

また、(1) 安打した打者が、先行走者をアウトにしようとする野手の他の塁への送球を利用して、1個またはそれ以上の塁を奪った場合や、(2) ある走者が、盗塁や失策によらないで、他の走者をアウトにしようとする野手の他の塁への送球を利用して進塁した場合や、(3) 盗塁を企てた走者が守備側チームが無関心のためになんら守備行為を示さない間に進塁した場合などにも、(10.07g)、これらの打者走者または走者の進塁を記録上の用語として野趣選択による進塁という。

しかし、長崎県高野連では、(1)、(2)についてはF Cと記入せず、送球の間として矢印を記入している。また、(3)については適用していない。

10.12

f(2) 第3ストライクの投球を捕らえ損じた捕手が、ただちにボールを拾い直して一塁に送るか、または触球して打者走者をアウトにする間に、他の走者が進塁した場合には、その走者の進塁を暴投または捕逸による進塁とは記録しないで、野手選択による進塁と記録する。また、捕手が打者走者をアウトにする代わりに、他のいずれかの走者をアウトにしたときも同様に扱う。

(現在、長崎県高野連では矢印で記録している)

【注】ただし、0アウトまたは1アウトで、一塁に走者がいたので、打者が規則によってアウトになったとき、走者が暴投または捕逸で進塁した場合には、走者には暴投または捕逸による進塁と記録する。

10.13

a b【原注】

第3ストライクが暴投や捕逸となり打者が一塁に生きた場合に守備側チームが走者の進塁を防いでアウトにしたときは、暴投および捕逸を記録しない。

【原注】

たとえば、走者一塁で投球が地面に当たり捕手が捕れなかったが、ボールを拾い直して走者を二塁でアウトにした場合、暴投を記録しない。他の走者の進塁は野手選択による進塁と記録する。また、走者一塁で捕手が投球を捕らえ損じたが、ボールを拾い直して走者を二塁でアウトにした場合も、捕逸を記録しない。他の走者の進塁は野手選択と記録する。(現在、長崎県高野連では矢印で記録している)

(すなわち、我々が送球の間として矢印で記入している記録は野手選択にあたりと考えられる。)

最後に私たちが通常、野手選択と記録している事案で、最終回または延長回裏0アウトまたは1アウトで、走者三塁、打者が二塁へゴロを打った。二塁手は本塁へ送球したが、間に合わずセーフになった。この場合、二塁手の野手選択(4-F C 2)と記録していたが、このケースは本塁への送球しか選択肢がない。したがって記録上、打者は安打と記録する。

